

もっと詳しく!

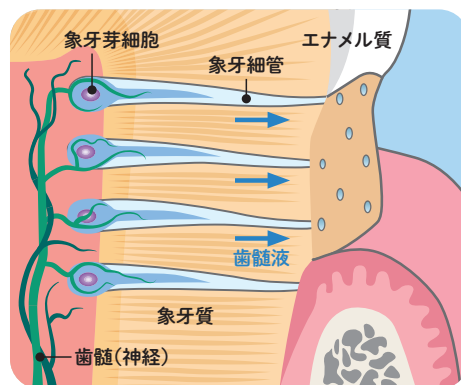
歯みがき・鈍麻・封鎖

「治療の流れ」のステップのうち、とくに大事なものを解説します。

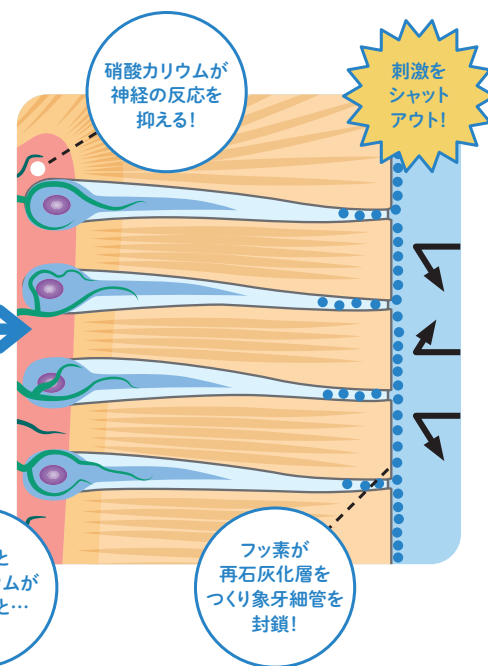
「歯みがき」も立派な治療です。

- 知覚過敏の治療では、食生活の改善とともに「歯みがきの改善」に取り組んでいただきます。なかでも重要なのが「歯みがき剤の成分」で、次の2つの入った歯みがき剤を使い続けてもらいます。
- 1つ目は「フッ素（フッ化物）」。
歯の再石灰化を促進するフッ素は、石灰化物の層をつくり、象牙細管を封鎖してくれます。1450ppmのものがおすすめです。
- 2つ目は「硝酸カリウム」。これは刺激に対する歯髄（歯の神経）の反応を抑える＝知覚を鈍麻する成分です。

露出した象牙細管



象牙細管内では、常に歯髄から外側へと歯髄液が流れています。



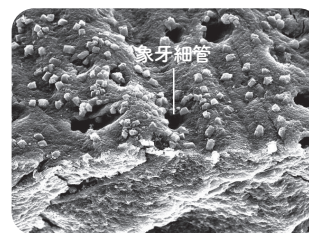
「知覚の鈍麻」で神経の反応を抑えます。

- 歯みがきで症状が収まらない場合は、神経の反応を抑える薬剤を症状のあるところに塗布します。
- おもに使われるのは硝酸カリウム溶液。歯みがき剤に含まれるのと同じ成分です。

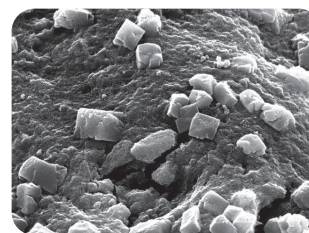


それでもダメなら「象牙細管の封鎖」。

- 薬剤で症状が治まらない場合は、コーティング剤を塗布します。
- シュウ酸カリウム溶液やレジンなどを塗って、露出した象牙細管を物理的にふさぎます。



電子顕微鏡で見たところ。象牙細管が露出したところにシュウ酸カリウムの結晶が付着しています。



拡大したところ。象牙細管が結晶でふさがれています。